

これがウワサの “原子力発電 THE ボードゲーム”

家族や友達と一緒に楽しめるゲームとして、世界中で人気が高まっているボードゲーム。このゲームに着目し、企画・開発されたのが「原子力発電 THE ボードゲーム」です。ゲームを楽しみながら、原子力発電の知識を深めることができるスグレモノ！

●ゲームは2~6人で

コミュニケーションしながら楽しむゲームです。

複数の人が同時に参加できること、また手軽に持ち運べるのでプレーする場所を選びません。

●10種類の「対策カード」

ゲームに使うのは、原子力発電所に必要な「安全対策」を記載・説明した10種類のカード。これをルールに従ってゲームシートに並べていき、最初に「プラント起動カード」をゲットした人が勝者となります。原子力発電所の起動にはどのような安全対策が取られているのか、各ステップを理解することができます。

なお、「原子力発電 THE ボードゲーム」は非売品ですが、地域での啓発活動に活用したい方は当協会の地域交流部（boardgame@jaif.or.jp）までお問い合わせください。



10種類の対策カード

1. 地震に対する対策
2. 原子炉を止める
3. 原子炉を冷す
4. 放射性物質を閉じ込める
5. 非常用電源の設置
6. 津波に対する対策
7. 発電設備の設置
8. 多様な電源と注水設備の準備
9. 操作・訓練の充実
10. 意図的な航空機衝突などに対応



お耳を拝借

食の境界線 こんなに違う？すき焼きの東西

「すき焼き」は砂糖としょうゆの甘辛い味で牛肉をいただく日本独自の料理で、大人から子どもまで大好きな方は多いと思います。

そんな「すき焼き」ですが、使う調味料や調理方法が東西で異なるのをご存じですか？

関東ではしょうゆ、みりん、料理酒、砂糖、だしで作った合わせ調味料「割り下」に具材を投入し、煮て作ります。一方、関西では先に肉を焼き、砂糖、しょうゆで味付けしてから野菜を入れます。なので、関西出身の筆者は、東京に来るまで「割り下」のすき焼きを食べたことはありませんでした。

「すき焼き」に入る肉以外の具材は、豆腐、ネギ、春菊、しらたき、しいたけ、ふなど関東と関西で大差はないようですが、関西の「すき焼き」には白菜が欠かせません。関東のように調味料が多く入らず、野菜の水分で味を整えるので、白菜は必須アイテムなのです。

外国人観光客にも日本の伝統料理として認知されている「すき焼き」、あなたの地方はどんな「すき焼き」ですか？



一見すると同じ「すき焼き」の写真。でも、大きな違いが……(ヒントは本文)

編集後記



新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、約2年ぶりの発刊となった『JAIF TIMES Vol.10』では、「2021年度オンライン意見交換会」の模様を特集しました。昨年11月に開催した意見交換会は「各地域での活動状況」をテーマに、地域の状況やメンバーの方々の活動トピックスをご報告いただき、今後の理解活動や情報発信に役立てていただく場としました。オンライン開催となりましたが、パソコン画面に皆さまのお顔がそろい、元気で活躍されている姿を拝見できたのが印象的でした。

メンバーの皆さまからは、この2年間、思うような活動ができず苦労されている様子、そしてコミュニケーションを行っていくための工夫などもお伺いました。また、CO₂排出削減や日本のエネルギーの安定供給に寄与する原子力発電の必要性・重要性といった話題も多く、さまざまな機会を通じて大勢の方に关心を持っていただき、理解の輪を広げていきたいとの心強い声もお聞きすることができました。

紙面作成にあたり、ご協力いただいた皆さまには、この場を借りて改めてお礼を申し上げます。今後とも、皆さまの活動に役に立つ内容を目指して頑張りますので、ぜひご意見をお寄せいただきたくお願い申し上げます。(Jangkao)

JAIF Regional Network TIMES

人をつなぐ・地域をつなぐ—いっしょに明日の原子力を考える

2022年1月 Vol.

10

地域のつながり、いま再び！



地域を青空でつないでみました。さて、この空はどこでしょう？

JAIF地域ネットワーク 2021年度オンライン意見交換会 概要

原産協会JAIF地域ネットワークでは、昨年11月25日、「各地域での活動状況」をテーマに、国内各立地地域および消費地のメンバー8名が参加し、「2021年度オンライン意見交換会」を開催しました。

前半は、2021年度コロナ禍における各地域での「主な活動実績」や「工夫・新たに取り組んだ点」「今後の課題・来年度の目標」について、メンバーから発表がありました。また、後半は活動報告などから浮かび上がった共通の課題について意見交換が行われ、「トリチウム水放出問題をはじめとする放射線理解活動の難しさ」や「原子力発電所再稼働に向けた本気の理解活動の必要性」を共有し、2時間の意見交換会を終了しました。

スカーフクラブ「あおもりサロン」 青森県青森市 赤石 禮子氏

主な活動実績

- 勉強会(対面、2回)
 - ①エネルギー関連(六ヶ所PRセンター)
 - ②会報誌の作り方(東奥日報)
- 講演会への参加(対面、2回)
 - ①弘前大学被ばく医療総合研究所主催
「弘前大学被ばく医療総合研究所10年間のあゆみ」
「桃太郎の力量—こどもの力でがん予防—」
 - ②青森県エネルギー問題懇談会連絡協議会主催
「当面の国際情勢と環境・エネルギー問題の行方」

工夫・新たに取り組んだ点

コロナ感染拡大の影響で勉強会をオンラインで開催したが、コミュニケーションの難しさを感じた。対面参加では、場所の確保に苦労した。

今後の課題・来年度の目標

- 今年度予定(12月)
 - ・六ヶ所施設見学、県との意見交換会
 - ・主催講演会「暮らしのエネルギーと放射線」
→YouTubeで配信予定(2022年2月ごろ)
- 来年度
 - イベントでの活動や福島第一原子力発電所の見学など

紫陽花の会などわ 青森県弘前市 白濱 允子氏

主な活動実績

- 勉強会(対面、11月)
「地層処分と脱炭素社会の実現に向けて」
- 見学会(10月)
北海道幌延深地層研究センター見学会(14名参加)

工夫・新たに取り組んだ点

コロナ禍で会の活動休止期間中の5月・7月に「紫陽花レター」を発送。会員宛てに現状説明を兼ねた近況報告の手紙を送り、不安要素を払拭するようにした。

今後の課題・来年度の目標

コロナの感染状況を見ながら、決めていく(勉強会、見学会)

柏崎エネルギーフォーラム 新潟県柏崎市 小林 英介氏

主な活動実績

- 理事会(4月、6月、10月)
- 総会(5月)
衆議院議員・細田健一氏による講演
「これからエネルギー政策と立地地域の未来」および質疑応答
- 見学会(11月)
柏崎刈羽原子力発電所見学
柏崎市の現状:本来であれば、2021年秋、柏崎刈羽原子力発電所の運転再開を目指していたが、諸事情により少し先になりそうである。
エネルギーの立地地域としては、何とか役割を果たすべく努力したい。

工夫・新たに取り組んだ点

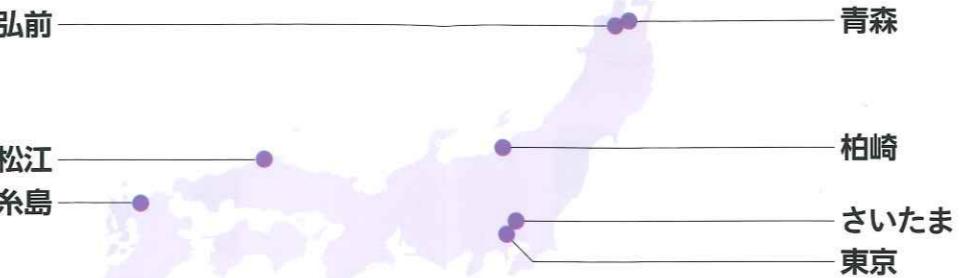
新型コロナウイルスの感染拡大により、予定していた活動は全て延期。
・柏崎刈羽原子力発電所視察(9月→11月)
・柏崎市議との懇談会

今後の課題・来年度の目標

- 勉強会(2021年12月以降)
- ・再生可能エネルギーに関する勉強会
 - ・第6次エネルギー基本計画に関する勉強会

青森

各地域での活動状況



エネルギーリテラシー研究所 東京都 秋津 裕氏

東京

主な活動実績

- 執筆
 - ①小島正美編著『みんなで考えるトリチウム水問題』第3章「よき理解者を得るために『納得』の構造とは」を担当
 - ②原子力学会誌『ATOMOS(アトモス)』2021年63巻12号コラム
- 講演
 - ①「知っていますか? 放射線～子ども達の学びを体験してみましょう～」他
→これまで放射線やエネルギーにご縁がなかった方々の参加を得られた。
 - ②オレンジページ×消費者庁・農林水産省・厚生労働省・食品安全委員会主催
「おいしいにっぽんフェス2021～食の安全・安心を学ぼう～(動画収録&リアル会場)
 - ③ワークショップ「自然の放射線を観察してみよう!」(オンライン&リアル)
 - ④保護者向けセミナー「一緒に考えてみませんか?～食べ物に含まれる放射線物質～」(YouTube, 30分)
- 放射線出前授業(3回、福島県内小学校)
- 環境省受託事業
放射線の健康影響に係る研究調査事業「放射線イメージ表現による科学的情報発信の有効性」調査

工夫・新たに取り組んだ点

草の根活動の醍醐味を味わう。
→トリチウム水に関する本が出版され、これまで放射線やエネルギーにご縁がなかった方々への講演を行う機会を得た。
・日本のエネルギー事情と放射線について
・霧箱を観察、βちゃんの音で放射線の存在を知るなど

NPO法人 放射線量解析ネットワーク 埼玉県さいたま市 山野 直樹氏

主な活動実績

- ワークショップ(継続実施、5年目)
- ・テーマ:「高レベル放射性廃棄物地層処分を考える」Zoom
- ・対象:大学生および教諭(将来のオピニオンリーダー候補)
- 第1~2回:外部専門家による講演
「技術的、制度的な課題について」
- 第3回:NUMO技術部による講演
「包括的技術報告書、セーフティケースについて」
- 第4~5回:第5回は「オンライン・カフェ」にチャレンジ予定

さいたま

工夫・新たに取り組んだ点

オンラインでの意見交換では、参加者が傍らにいないために心理的な距離があり、時間に余裕がないと本音の意見が出にくないので、それを補うような工夫が必要だった。

- ①指名し、参加者全員から自由な意見を求める。
- ②カメラに目線を合わせて、表情豊かに話す。
- ③「うなずき」の演出も大切。

今後の課題・来年度の目標

- ・ワークショップや見学会をZoomで実施。対話の難しさが如実。
- ・参加者を集めるのに苦労している。ただ、いまコロナ禍=オンライン(Zoom)なので、広域連携で参加者を募るのも大切だと思っている。
- ・12月初旬、六ヶ所見学&意見交換を予定。

松江エネルギー研究会 島根県松江市 石原 孝子氏

松江

主な活動実績

コロナ禍で学生との活動が難しかったため、ほとんど活動できていないのが現状。

工夫・新たに取り組んだ点

- 9月15日に規制庁から許可が出た、島根原子力発電所2号機の再稼働に向けての取り組み
- ・再稼働実現に向けて電力会社が本気にならなければ、前には進まない。
 - ・中国電力(株)社員やその身近な方たちへの働きかけから行った。

今後の課題・来年度の目標

- 再稼働に向けての講演会「金田武司先生講演会」
- ・日程:2022年1月20日(木)18:30~20:30
 - ・場所:島根県民会館中ホール
 - ・主催:松江エネルギー研究会
 - ・共催:中国電力(株)

食のコミュニケーション円卓会議 福岡県糸島市 市川 まりこ氏

糸島

主な活動実績

- オンライン勉強会(Zoom、5回)
- 放射線関係勉強会(2回)
 - ①6月「トリチウム処理水のリスクについて」
 - ②9月「わずかな放射線で本当にガンが増えるのか?」

工夫・新たに取り組んだ点

今年、「トリチウム処理水のリスク」をテーマとして取り上げたのは、
→国が風評被害対策費300億円を計上
→「リスクコミュニケーション」がうまくいっていない状況
→(知恵を出し合いながら)コミュニケーションが大事、と考えたから。

今後の課題・来年度の目標

コロナ感染の状況次第。オンライン勉強会を継続し、状況が許せば、食品照射についての「公開・しゃべり場」を開催したい。